

# 今年の冬は 子牛の寒さ対策を

(公社) 北海道酪農検定検査協会

乳牛は寒さに比較的強い動物とされていますが、子牛は体脂肪が少なく、被毛も薄く、ルーメン発酵がありません。哺乳子牛は育成牛や泌乳牛と比べて寒さに弱く、温度が15℃を下回ると、体温維持のため多くのエネルギーを消費してしまいます。さらに、体が濡れている、風があたる、床の糞尿・・・などによって、大きな寒冷ストレスを受けます。

出産直後に母牛が繋ぎの状態産まれると、子牛の体温は母胎内温度から外界の温度まで低下します。次の朝まで放置しておく、寒い時期は子牛の体感温度が下がり、死に至るケースがほとんどです。北海道の乳牛農家における分娩月別子牛死産頭数を下図に示しました。分娩頭数は年間を通して同程度ですが、死産頭数は12~2月までは、他の月より、約千頭も多くなっています。

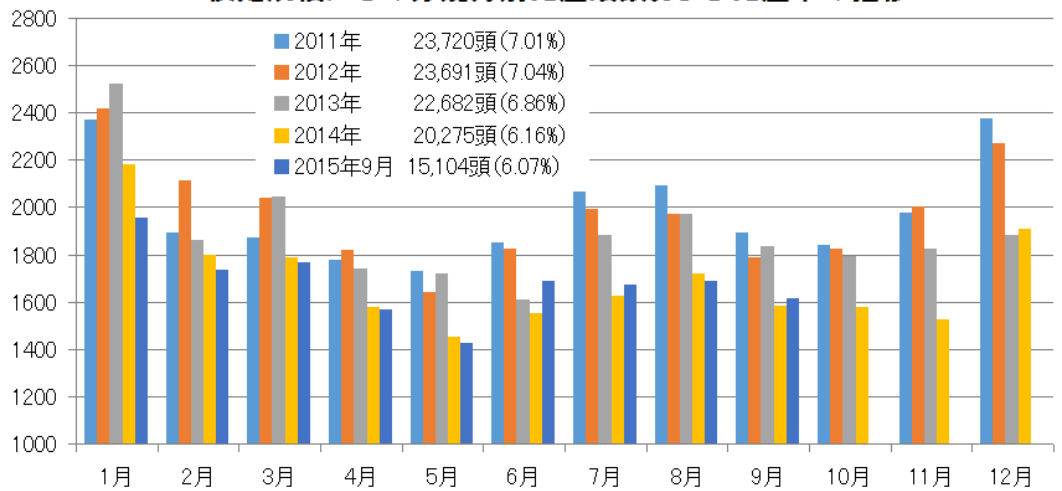
このことを考えると、子牛の死産を減らすためにも、冬期間における寒さ対策を徹底すべきです。母牛体温が0.4℃以上下降したら、高い確率で24時間以内に分娩すると予測できるので、看護態勢をとってください。

保温には、白熱灯の電気や100均で購入作成したカーフジャケット、ネックウオーマや湯たんぽを用います。ハッチを囲んで冷気を直接体にあてないのは効果的ですが、疾病予防の観点から換気を妨げないことも重要です。

後継牛確保につながるためにも、高価な子牛を寒さから守る対策を今から準備し、確実に実行してください。

死産頭数

検定成績からの分娩月別死産頭数および死産率の推移



冬期間は、他の月に比べ、死産が非常に多くなっています。



厳寒期に母牛が繋ぎの状態では人の看護がないと子牛は死んでしまいます！！



白熱灯など電気による熱源により子牛の体温を上げます



ネックウオーマと湯たんぽ（奥のポリタンク）で保温します



100均で購入作成したカーフジャケットで保温します



換気を確保しながら、冷気を直接体にあてないようにしましょう

本会のWEBページをご覧ください。

性判別精液や和牛受精卵を活用した北海道牛群検定促進クラスター事業と併せ、生産乳量維持拡大や子牛の事故率低減に向けた酪農経営向上への技術対策を掲載しています。

URL: <http://www.hmrt.or.jp/>